

スマトラ皆既日食観測ツアー（近畿日本ツーリスト横浜海外旅行支店）

木村 精二

一行は、武者小路知行（小平市）、大村賢吾（豊明市）、永井信宏・明子（三島市）、篠原信裕（川崎市）、石坂清一（沖縄県）、木村精二・真弓（東京）の8名。主催旅行社のPR不足か、添乗員なしという募集条件で敬遠されたためか、10名にも満たない小さいパーティで、小回りがきく楽しい5日間の旅であった。3月15日朝成田発、ジャカルタで1泊、ガルダの国内便でスマトラ島に飛び、2泊して皆既日食観測。残念ながら朝霧に悩まされ、僅かに内部コロナが認められた程度の成果。夕方ジャカルタへ、翌朝に成田着。

目的地のパレンバン、スマトラ島の首都に到着したのは、日食の2日前の午前中。空港のアスファルトは、じっとりと濡れ、出迎えの現地エイジェントの2人（若い中国女性とハッサン氏）に聞けば一雨降った後という。ジャカルタから添乗している日本語の巧みなニョウマンさんと合わせ、運転手を含めて、一行は12人に増えた。大きい西瓜ぐらいもあるココナッツヤシから始まるインドネシア料理の昼食時に、たたきつけるようなスコール。ホテルで小休息のあと、観測地の下見に全員が参加。スマトラ州観光局が、外国からの訪問者のために用意してくれたパレンバンでの観測候補地は、7箇所あり、まず、北西20Kmの射撃場へ。皆既日食中心線に最も近く、なだらかな丘の上で、見晴らしは上々だ。次に空港近く、市内へ10Kmほど戻った元レーシング場。ここも地形的条件は良い。

翌17日は、オプションの観光、2食付きで、なんと34ドル……4,300円！市内の候補地サッカー場なども回る。含まれた夕食は中華で、天ガ・グループ等と同じKing's Palace。歓迎晩餐会が終わって、外は再び雨。今のうちに降れば、雲も無くなるかも知れない。

18日、皆既日食の日。未明は確かに晴れ、南十字が西に傾くのがハッキリ見えた。前夜のうちに全員一致で決めた射撃場へ、4時出発。5時現地到着、薄明中の南天の星を何枚か写す。数十名のフランス隊、84年日食のときニューギニアで会った数名のイタリア隊も陳取る。わがグループの望遠鏡の主力はタカハシのFC-65 スペイスボーイ等、カメラはマミヤプレス3台ほか、望遠レンズ多数。6時、日の出は薄雲の中。6時30分、第1接触。次第に雲が広がり始めた。間もなく、一面に霧に覆われ、細い太陽も姿を消した。7時半、第2接触。ここで永井ご夫妻が登場して戴こう。“皆既の始まりを告げる声があるがダイヤモンドは、もちろん見えない。皆ポー然として雲の切れるのを待つ。2分半という短い皆既時間が刻々と過ぎていく。と、誰かがあっとさけぶ。雲の切れ間から黒い太陽が姿を現した。コロナもうすぐ見える。何よりプロミネンスが上下にオレンジに輝いている……しかし、それも数十秒。また一面の雲。第三接触のダイヤモンドリングは見えない。こうして自然の祭典はむなしく幕を閉じた”（にゅーずれたーふるむみしまNo.17より）。「……私はあの日食以来、太陽の虜となりました。……黒点観測を始めようと今準備を進めています。……」という大村氏が、7時30分37秒に1.5秒露出した写真は、内部コロナを見事に捕らえた。